

## 別記様式第2号

令和 6 年 8 月 28 日

行政視察報告書	(会派の場合) 会派の名称	
	代表者氏名	
	(会派以外の場合) 議員氏名 荒井直彦	
参加議員	土佐洋子 議員	伊東圭介 議員
	中村和雄 議員	待寺真司 議員
	荒井直彦 議員	議員
	議員	議員
日程	令和6年8月7日(水) ~ 令和6年8月8日(木)	
視察先	(1) 愛知県犬山市	
	(2) 愛知県知多郡阿久比町	
	(3) 静岡県富士市(民間企業紙のリサイクル工場)	
視察目的 (項目)	(1) 避難所ペット同室避難の取組み・内田防災公園について	
	(2) 防災・減災対策の取組みについて	
	(3) 雑紙のリサイクルシステムについて	
【調査内容・概要】		
(1) 愛知県犬山市		
<p>犬山市は、愛知県の最北端に位置し、木曾川を挟んだ対岸の岐阜県各務原市や可児市等と接しています。濃尾平野の一部である市西部は、市街地や農地、工業用地として発展しており、東部の丘陵地には緑豊かな里山がひろがり、人工的に作られた「入鹿池」があり、農業・米作にその豊かな水が利用されています。</p>		
<p>令和6年8月1日現在の人口は71,427人、31,911世帯が、74.90㎢に暮らしています。他の地方自治体同様に人口減少が進んでおり、8月1日時点での前年同月比で855人の人口減となっております。</p>		
<p>犬山市には国宝が3つありますが、中でも犬山城は幾多の戦乱や震災などの被害を免れてきて、1537年に築城された天守は、現存する日本最古の様式と言われています。1935年(昭和10年)に国宝に指定されましたが、犬山城天守は国宝天守5城(松本城・彦根城・姫路城・松江城)の中でも最も古いとされています。</p>		

天守最上階から見下ろす景色は、悠々と大地を流れる木曾川や市内が一望できて、まさに絶景かなです。外国人観光客も増加しており、特に冬の外国人観光客の増加率が日本一とのこと。市役所での研修後に犬山城下を現地踏査した際にも、アジア圏や欧米からの観光客が大勢拝観しており、日本人観光客は少なく感じました。また花火大会にも趣向を凝らした演出があり、1日で打ち上げるのではなく、10日間連続で毎日300発(10分間)打ち上げています。地元市民への配慮を感じさせるもので、視察当日も花火大会が開催され、浴衣を着た学生さんたちが楽しそうに城下町本町通りを歩いているのが印象的でした。



↑ 国宝犬山城天守の外観      ↑天守から見下ろす木曾川 対岸は岐阜県

今回の視察目的は防災・減災対策に関する案件でしたが、犬山市議会は議会改革や主権者教育にも大変力を入れており、当町議会にも参考となる事業が展開されているので、機会があれば議会運営委員会での視察も視野に研究して参りたいと考えます。

犬山市でも、150年前には前述の入鹿池が決壊して水害を受けたり、1891年(明治24年)には濃尾大地震によって大きな被害を受けたこともあり、防災・減災対策の取組みも進んでいます。その中で「避難所ペット同室避難の取組みと内田防災公園街区整備事業」に関して調査・研究を行いました。

#### ★犬山市「ペット同室避難」に関して

犬山市は全国で唯一、市の名前に「犬」がつきます。市内33ヶ所の指定避難所のうち、犬山市民交流センター・犬山市体育館・楽田ふれあいセンターの3ヶ所を、ペット同室可能な避難所に位置付けている。ペット避難に関する避難所のルールは以下の通りです。

- ・ペットは飼い主が責任を持って世話をする
- ・施設内ではペットをケージに入れること

- ・ペットは指定された場所で飼育する
- ・避難生活に必要なエサ・薬・ケージ・首輪などは飼い主が準備する  
(避難所では数個のケージを用意しています)
- ・避難者同士の思いやりの気持ちを欠かさないこと

葉山町はワンちゃんの登録がとても多く、他のペットも多いので家族としての、ペットとの同室避難はとて大切な事で、ペット同室避難を進めていかななくてはならないと感じました。

### ○「内田防災公園の利活用」に関して

地震災害に脆弱な市街地は・・・

- ・木造の老朽建物がとて多い
- ・道路の幅員が狭い
- ・住民や来訪者が集中する密集市街地



地域内における唯一の大規模なオープンスペースを市が取得することで、市街地に不足する避難場所としての機能を「恒久的」に確保する。



「防災機能を有する都市公園」と「地域に求められる機能を一体的」に整備しました。

補助金等の活用方策として 防災公園街区整備事業と社会資本整備総合交付金を導入。葉山町でもかつてより提案している、かまどベンチやマンホールトイレも、もちろん整備されています。災害時に絶対に必要なことと感じています。

記 土佐洋子



↑ 内田防災公園の施設案内看板

↑ コンパクトなかまどベンチを設置

## ★ペット同室避難所の取り組み状況について

市内33か所の指定避難所のうち3か所をペットと同室で過ごせる避難所としている(同室避難)。施設内ではペットをケージに入れる、避難生活に必要なもの(エサ、薬、ケージ等)は飼い主が用意することなどを内容とした「ペット避難に関する避難所のルール」を定めているほか、「日頃の準備」として飼い主に対してペットのしつけと管理、ペット用の避難用具や備蓄品の確保、情報収集と避難訓練の実施を求めている。

同室避難のできる避難所の整備にあわせて、「避難所のルール」および飼い主としての「日頃の準備」を求めている当市の姿勢と対策は、ペットを大事な家族の一員として飼っている町民が多い我が町にとって参考になる取り組みである。

## ○内田防災公園について

国宝犬山城を中心とした犬山城下町地区は、災害発生時における避難スペースの確保や、観光客の大型バスや乗用車の駐車場の確保が課題であった。このような中、内田防災公園は犬山城下町地区防災公園街区整備事業の一環として整備された。民間事業者が所有していた総合運動場を、独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)の「防災公園街区整備事業」を活用して、UR都市機構と連携しながら用地を取得し、防災公園の整備、市街地部分の整備(道路、観光駐車場、多目的広場、消防出張所)を行った。

敷地内には駐車場(普通車123台、大型バス5台)、消防出張所、テニスコート2面、トイレ1棟、防災備蓄倉庫(トイレ合築)、ソーラー照明13基等が設置されている。さらに防災公園区域内には耐震性貯水槽(40m<sup>3</sup>)、マンホールトイレ6基、かまどベンチ4基、防災四阿1棟などが設置されている。

担当者の説明を受けながら思い出したのは本年5月、総務建設常任委員会の視察で訪れたオガールプロジェクトにおける資金確保のための周到な戦略だった。オガールプロジェクトでは「民間都市開発の推進に関する特別措置法」(昭和62年法律第62号)に基づき昭和62年に設立された、国土交通大臣の指定を受けた一般財団法人民間都市開発推進機構(MINTO機構)等の民間の視点や融資制度を活用していた。今後、税収減が懸念されるなか、導入可能な資金確保策を可能な限り追求することは極めて重要であり、公共施設整備の事例のひとつとして、本町として大いに参考にしたい。

記 中村和雄



↑ トイレと防災倉庫が一体となっている

↑ 倉庫の中にはワンタッチテントが多数

◆事前に伺いたい質問事項をご連絡していたところ、視察前に、先方よりご回答を頂いたため、当日は、より深い内容のお話を伺うことができた。犬山市の特色としては 全国でも唯一「犬」の名前がついていることと、犬山市の公式キャラクターが「わん丸君」であることが、推進している理由と改めて感じました。

#### ★ペット同室避難所の取組みについて

運用開始は令和4年12月1日からで市内指定避難所33ヵ所の内3ヶ所をペット同室避難可能な避難所に位置づけている。(市民への告知のためのチラシを作成)経緯としては、平成26年に議会での一般質問を受けてからで、前市長からの指示で令和3年から具体的に検討開始して現在に至る。推進された理由のひとつは、市民の方で当時、平成27年9月の中日新聞に犬山市出身絵本作家のうささんも要望されている。

今までに避難訓練には 2回実施されている。但し、市民には伝えず、関係者のみの告知している。(別添資料参照)

1回目 令和5年1月31日 参加者総勢23名 (協力団体14名、市職員9名)  
犬3匹、猫2匹、アヒル1匹

2回目 令和6年1月22日 参加者30名(協力団体14名、市職員16名)  
犬6匹 猫1匹、モルモット1匹

参考までに「りく・なつ同室避難推進プロジェクト」アンバサダー五代夏子と歌手の大石まどか氏が推進されていて、全国にひろげていく活動をおこなっている。

犬山市で避難所に事前に用意をしているペット避難用資機材は10項目あり、その中でもケージに関しては、避難者が持参すべき機材ではあるが、各避難所には大小合わせて10セットずつ常備している。犬山市の今後の課題では、避難所の空調設備のこと(訓練日が冬に実施している関係)も災害の種類にも関係している(停電の時等)

今回の視察で感じてすぐに葉山に置き換える場合では、まず、葉山の指定避難所6ヶ所には 同室避難はできないが、少なくとも折りたたみ式のケージは、準備して置かなければいけないと思っており、今後の取組みも再確認をして行く。

#### ○内田防災公園について

現地での説明であったが、説明を受けるにあたり、防災公園として整備をしたパンフレットが作成しており、わが葉山町でも南郷上ノ山公園が広域避難所であり、犬山市と同様な施設概要を明記して、パンフレットを作成すべきであると思います。

記 荒井直彦

◆犬山市は、愛知県の最北端で岐阜県との県境に位置しています。北部から西部にかけて一級河川の「木曾川」が流れています。北部から東部にかけては丘陵地が続き、里山を形成しており、市東部の「入鹿池」から五条川が流れ、新郷瀬川や郷瀬川と繋がり、市の中心部に流れ出ています。

今回の視察は、大学時代の同期が市長を務めていることもあり、歴史と文化のまち、そして先進的な取組みをしている犬山市を視察させていただきました。



↑ 伊東議長の大学時代野球部の同期である原市長(中央)と柴田議長(手前)にご挨拶いただきました。右側の写真は犬山城に続くレトロな街道沿いにある昭和横丁。

## ★ペット同室避難所の取組みについて

現在、犬山市では、市内33か所の指定避難所の内、3か所をペット同室避難可能な避難所として位置付けています。設置に至る経緯は、平成26年の前市長時代にペット同行避難について一般質問を受けたのがきっかけとのことでした。その後、具体的な検討を繰り返し令和4年に同室避難が可能な避難所を決定して同年12月から運用開始となったとのことでした。施設の選定にあたっては、指定避難所（公共施設）であること、部屋数が多いことや他の避難者と動線を分けること、地域の分散などを考慮したそうです。

運用にあたっては、「ペット避難に関する避難所ルール」を制定するとともに市としてペット避難用資機材も備蓄しているとのことでした。訓練については、令和5年・6年と2回実施し、避難所の運営や施設管理などの課題整理をして解決に向けた検討を行っているとのことでした。

葉山町においても犬の登録数が2,500頭を超えており、県内でも人口比ではトップであり、ペットとの同行避難に関しては、早急に現実に即した対策を検討しなければいけないと考えます。今回は、様々な面で参考になる視察となりました。

### ○犬山城下町地区防災公園街区整備事業（内田防災公園）

国宝犬山城を中心とする犬山城下町地区は、地震等の災害発生時における十分な避難スペースの恒久的な確保や城下町を訪れる観光客の大型バスや乗用車の駐車場の確保などの課題があったそうです。

このような中、緊急輸送道路に指定されている県道春日井各務原線に面した旧名古屋証券総合運動場において独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）の防災公園街区整備事業を活用し、UR都市機構と連携しながら用地取得及び防災公園の整備、市街地部分（道路・観光駐車場・多目的広場・消防署北出張所）の整備を行ったとのことでした。

これにより、平常時は公園と多目的広場は、市民の憩いや運動の場として、観光駐車場は来訪者の駐車場として利用されています。また、地震等の災害時には、発生直後は広域避難場所として、復旧・復興段階では、救援物資の中継地や応急仮設による避難の場としての利用が想定されているとのことでした。

内田防災公園の主な施設、設備としては、遊具4基、防災あずまや1棟、耐震性貯水槽（40m<sup>3</sup>）2基、かまどベンチ4基、マンホールトイレ6基、トイレ1棟、防災備蓄倉庫1棟、照明15基、ソーラー照明10基などです。

今回の視察では、「防災公園街区整備事業」の仕組みとして国土交通省と地方公共団体、UR都市機構が一体となり進める事業が特に勉強になりました。

記 伊東圭介

## (2) 愛知県知多郡阿久比町

阿久比町は、愛知県南西部知多半島の付け根の中央に位置し、半田市・常滑市・知多市・東浦町と接している、面積23.80㎢と小さな自治体です。半島内でありながら海岸線を持っていないといった地理的環境は違いますが、半島の付け根に位置している点や大都市のベッドタウンとして発展してきている点、そして人口戦略会議による検証では、自立持続可能性都市として名が挙がるなど、当町との類似点も多く、人口は令和6年8月1日現在、28,175人・11,104世帯となっており、人口は僅かに減少していますが、世帯数が逆に増えているなど、人口の特徴も当町と似ております。子育て世帯が転入したくなるための施策を展開しており、その点でも参考となる自治体と強く思いました。

役場での視察に先立って「阿久比スポーツ村」を見学しました。子育て支援センターや、体育館・トレーニングジムや近く改装する温水プールなどがあります。



↑ 瀟洒な庁舎から撮影した円形型の役場レストラン      ↑ 体育館の天井は高いがコンパクト

今回の視察では犬山市同様、防災・減災対策に関する案件で4項目研修して参りました。中でも「ジチタイワークス」で取り上げられていた「罹災証明迅速化ソリューション導入」に向けた取り組みに関しては、今後の当町でも是非とも取り入れていきたいDXツールであり、視察当日は、富士フィルムシステムサービスの担当者も同席して、実際にデモ機を使用してその優位性を直に感じてきました。阿久比町での視察前に、すでに当該事業者が本町役場に説明に来るとの情報も入っており、全国的にも大災害発生時において職員が苦慮している、罹災証明が的確にかつ迅速的に発行できるために、是非とも積極的に取り組んでいただきたいと強く感じる視察となりました。その他にも、災害時避難行動要支援者登録制度の現況や、狹隘道路整備事業の進捗状況などについてご教授いただきました。

## ☆阿久比町報告

### ・避難行動要支援者登録制度について

この制度は、災害対策基本法に基づく制度で、巨大地震等が心配されている今日、行政と地域が一体となって避難者の登録と支援の体制を整備すべく取り組んでいる制度だが、個人情報保護や地域の負担等から各市町村とも苦慮している状況にある。

視察に先立って阿久比町のホームページを開いたところ、「避難行動要支援者登録制度について」というわかりやすく丁寧な制度の説明が掲載されていた。町民への制度の周知を丁寧に行っているほか、個別避難計画の作成に協力した自治会・自主防災組織や介護保険サービス事業所に対して、計画作成1件あたり3000円を交付している。なお、阿久比町の避難行動要支援者登録数は925人である(令和6年7月1日現在)。

阿久比町も地域によって温度差があるのが実態のようだが、町民の理解を広げるための町の姿勢と広報内容には学ぶべき点がある。葉山町の場合、地域等関係者への遠慮があるように感じている。この制度は支え合いの地域づくりに資するばかりでなく行政と地域の連携と信頼関係を深める可能性のある制度だと認識しており、町の積極的な取り組みについて考えていきたい。

### ・応急危険度判定士について

地方公共団体の職員であれば、職種に関わらず応急危険度判定士の資格が取れるということで、阿久比町では避難所となる体育館や保育園などの施設管理職員の応急危険度判定士講習会の受講を進めており、行政判定士は年々増えている(令和5年度末現在51人)。公立保育園の保育士の受講が増えているとのことである。

### ・被災住家の被害認定調査について

住家の被害認定調査は、その後の住民の早期生活再建に密接に関わるため迅速な罹災証明書の発行が大きな課題になっている。阿久比町で行った、従来のアナログ手法と富士フィルムシステムサービス(株)開発のデジタル手法による調査の比較実施結果について説明を受けた。その結果は、調査員の負担の圧倒的な違いだった。

富士フィルムシステムサービス(株)開発のデジタル手法は、基幹システムとの関係によるデータの自動入力・一元管理のため、調査員が個別に事前準備することなくタブレットを持ってすぐ現地に行けるほか、調査員によるバラツキが防止でき、さらにアナログ手法では多くの時間が必要な帰庁後のデータ整理の時間が不要とのことである。どちらが正確に判定できるか私には確認しようがなかったが、今後のAIの進歩を考えれば、罹災証明迅速化ソリューションの有効性は大いに期待できると感じた。

#### \*その他

視察予定時間より早く阿久比町に着いたため予定外で訪れた「阿久比スポーツ村」は、日を改めて視察したいと思わせるような羨ましい施設だった。

阿久比町の丘陵部に広がる総面積約82,000平方メートルのスポーツ施設で、野球場、多目的に使えるグラウンド(トラックあり)、各種器具を備えたトレーニング室、令和4年4月にオープンした多目的体育室や会議室を備えた交流センターからなっており、本町とほぼ同規模の自治体がこのような施設を持っていることが信じられない思いである。因みに、阿久比町は人口が28,183人と本町とほぼ同規模の、なかなか元気な魅力ある自治体と感じた。

記 中村和雄



↑ 阿久比町スポーツ村のクラブハウス内には子育て支援センターなどが同居している。ジムトレーニングルームは近く、体育館の一角に移設するとのこと。

## ★阿久比町 「防災・減災対策について」

- ・避難行動支援者登録制度
- ・被災建築物応急危険度判定の取り組み
- ・被災住家の被害認定調査
- ・狭隘道路整備事業

の4点を伺いましたが、特に罹災証明迅速化が素晴らしいです。住家被害認定調査の訓練を行いDXツールの優位性を確認する。

想定外の災害に備えるためには、日頃からできる限りの対策が必要で、阿久比町税務課職員は全員が住家被害認定士の資格保持者を取得している。同じく町職員さんである保育士さんも多くが取得をしている。

阿久比町のトイレトレーラーを能登半島地震の被災地に派遣している。令和6年3月議会の一般質問でも提案したが、ぜひ葉山町でもトイレトレーラーを導入して欲しいし、罹災証明迅速化のシステムを取り入れてほしい。

記 土佐洋子



↑ 阿久比町キャラクター「アグピー」と



↑ 阿久比町議会議場にて撮影

### (3) 静岡県富士市：コアレックス信栄工場現地踏査

コアレックス信栄工場が立地している富士市は、南には駿河湾があり、霊峰富士の裾野に広がる244.95km<sup>2</sup>と行政面積の大きい自治体です。日本で唯一富士山と海があるまちです。総人口は令和6年4月1日現在247,121人ですが、令和5年では年間1,186人減となっています。

富士山から豊かな水源により、製紙会社47社・52工場が林立しており、トイレトペーパーの全国シェアは35.9%（令和4年実績）と非常に高いです。視察先の担当者からも、リサイクルロール紙を1トン製造するためには、その100倍の水が必要で、富士山からの伏流水をくみ上げて利用しているとの説明がありました。工場近くを流れる富士川から取水しているものと思っておりましたが、地下水を使用していました。

余談ですが、災害派遣トイレネットワークプロジェクト「みんな元気になるトイレ」に全国で初めて参加し、トイレトレーラーも全国で初めて導入しました。



↑ コアレックス信栄工場の外観

↑ オートメーション化された工場内の設備

★ コアレックス信栄株式会社富士工場

今回の視察は、コアレックスの保有する最新鋭原料設備の独自除去システムによりフィルムや留め具などの金属やプラスチックなどが混ざった状態でも、人の手による分別が不要であり、紙の繊維のみを抽出することができる技術を実際に見ることでした。

この技術により、行政機関や企業で保有している機密文書を未開封・無選別で溶解処理することができ情報漏洩を防ぐことができます。また、再生古紙として扱いの難しい、アルミ付き紙パックやカーボン付き宅急便伝票、窓付き封筒やホチキス付き書類等を分別することなく回収してトイレトペーパーにリサイクル可能です。

現在、燃えるゴミとして焼却処分している紙類の中からリサイクル可能なものを分別することなくミックスペーパーとして出せることは、町民の利便性を高めることだけでなく、CO2 排出削減効果もあると考えます。

葉山町では、紙類の資源回収については、町内会・自治会が民間業者 3 社と直接契約を結んでおり、導入には課題もあると思いますが、新しい技術を取り入れ環境負荷低減に役立つ事業として検討する価値はあると思いました。

記 伊東圭介



↑ 工場内には雑紙などが混在している回収された紙の束が高く積み上げられている  
右側写真:トイレトペーパー等の原料となる巨大ロール紙。重さは大体2トン以上あります

★「すべての紙を資源と考える」

例えば、ホチキスで留めたままの紙や、今まで焼却処分していた「雑がみ」も再生できる独自の技術を開発している。また、紙芯がないトイレトペーパーをはじめ、さまざまな再生家庭紙を生産・販売している。自治体からの機密文書などは、バインダーやクリップなどがついたままの紙（未開封・無選別のため中身が目には触れることはない）も機密は守ったままリサイクルが可能となった。

町民のみなさまが分別に困る、防水加工された紙・アルミ加工された紙・カーボン紙・圧着式ハガキ・写真・レシート・窓付き封筒などもすべて「雑がみ」としてリサイクルできることは、町民にとってもとても有益なことと思う。

敷地は東京ドームと同じくらいとても広大です。災害時には地域住民の避難所となるので24時間、ドアは開錠されていて敷地に扉はない。コアレックスグループは、紙づくりと古紙再生の技術を通して、みなさまの暮らしを支えるとともに、地球環境の保全に、いち早く取り組んできている。より環境に優しく、より高品質な紙を作っている。

記 土佐洋子

★ 独自の古紙再生技術によって、従来可燃ごみとして処理する他なかった禁忌品や難再生古紙を原料として再生している会社である。

2023年から同社に処理を委託している座間市のホームページによれば、ミックスペーパーとして出せるものはシュレッターした紙、アルミ加工紙、窓フィルム付きの紙、封筒、レシー

ト、感熱紙、圧着はがき、写真、アルバム(金具もついたままで OK)、ティッシュやお菓子の箱、その他汚れていない全ての紙となっており、さらに注書きには、①「燃やすごみ」か「ミックスペーパー」、どちらか迷ったときはミックスペーパーで出してください、②この取り組みによりミックスペーパーの回収量は、取組み前と比べ、約1.5倍になっていますと記されている。

同社は、昨今では常識となっている牛乳パックや紙コップの再資源化に加え、ラミネート紙の原料化など、革新的な技術を実現したほか、機密書類を、情報漏洩を防ぎながら再生するシステムや、回収した書類などから金物、フィルム、インクなどを効率良く除去するシステムにより、1992年には通産省立地公害局長から「再資源化貢献企業」として、リサイクル促進協議会会長から「リサイクル促進功労者」として表彰を受けている。

また、製品開発にも取り組み、芯無しロール「コアレス」、さらに「ワンタッチコアレス」を生み出し、芯に使用される紙資源の節約に加えて、ほぐれやすい穴形状で最後の一回までムダなく使えるトイレトペーパーを開発した。

さらに、廃プラスチックやスラッジは、グループ会社工場では燃料や炭などにリサイクルするなどゼロ・エミッションをめざしているほか、排水処理についても全ての工程で出た排水を回収し独自の浄化システムで川に戻している。

担当者から説明を受けながら、どんな紙でも資源化してみせるという自信と気概を感じた。説明を額面通りに受け止めていいか分からないが、本町としても、紙資源の分別収集と有効活用の面から現行体制を見直す意義を感じたところである。

記 中村和雄



↑ 犬山市の皆様、現地踏査も含めて長時間に渡る視察対応ありがとうございました。

視察概要及び編集 待寺真司

